平成25年（2013）　1月1日

No.40

げんきカエル

こども病院ニュースレター

新年のごあいさつ

夢が現実に 新病院の基本設計完了

病院長　丸尾　猛

新年おめでとうございます。

当院は昭和45年に全国2番目の小児病院として開設され、43年を迎えます。昨年2月に建替整備基本計画が発表され、ポートアイランド2期中央緑地での移転建替が決まりました。2年前倒しで2015年開院に舵をきって下さった兵庫県当局の英断に感謝で一杯です。

昨年7月から毎週の設計推進会議、毎月の整備検討委員会を中心に若手スタッフからの生の声に耳を傾け、各部署ヒアリングを重ねることによって、こども病院の想いがこもった新病院基本設計案が出来上りました。新年を迎え、こども病院の夢が現実へと急ピッチで動いています。本当にうれしい限りです。

新病院では、「ホスピタル ＆ パーク」のコンセプトのもとに、緑地・公園との間にしきりはなく、在宅療養支援病棟を整備し、小児救急・集中治療部門を拡大し、手術室・日帰り手術室を増室して、小児・周産期高度専門特殊医療に対応できる290床が実現します。

昨年8月に心臓病のこどもを守る会、さくらんぼの会、かくれんぼの会をはじめ患者さんご家族に向けた建替説明会を開催し、新病院での医療連携の展開、2重・3重の防災対策、院内学級整備、駐車場500台整備、三宮からのバス運行増発等への取り組みを真摯に説明させていただきました。ご家族のご理解が深まったと感じています。

新病院には隣接して神戸市立中央市民病院・救命救急センター、低侵襲がん医療センターがあります。胎児・新生児の救命は当院が担い、母体の救命は中央市民病院が担う補完的で互恵的な機能連携によって、超・極低出生体重児の救命を可能にし、ハイリスク妊娠（前置胎盤・癒着胎盤）、脳外科疾患合併妊娠の母児救命を可能にします。一方、こども達の医療処置には麻酔が不可欠ですが、当院には常勤小児麻酔科医が20名います。小児麻酔科医が患児に寄り添って隣接の救命救急センターや低侵襲がん医療センターへ動くことにより、須磨に孤立した立地では救えないこども達の命を救うことができます。協働は隣接の立地で初めて可能となります。患児が成人となりキャリーオーバー患者が増える今、神戸大学病院との連携に加え、隣接施設との連携が進めば、患者さんとご家族の安心は一層高まります。

移転地は、南海トラフで最大級のマグニチュード9の地震が起きた際の神戸沖最大津波高よりもはるかに高い位置にあり、浸水しない地盤高です。阪神淡路大震災の後、神戸大橋の耐震補強工事が実施され、港島トンネルが開通し、防災面でアクセスは大きく改善されています。未曾有の東日本大震災の経験を生かして、トンネル出入口の防災補強を要請し、安心・安全が実感できる新病院にしたいと念じています。

新年を迎え、皆様方にとって素晴らしい一年でありますようお祈りすると共に、今後もより一層の医療連携をお願い申し上げます。

上海の姉妹病院に行ってきました!

副院長　上谷　良行

中国福利会国際和平婦幼保健院創立60周年記念式典
日中周産期における新生児医療学術シンポジウム

2012年4月に姉妹病院の協定を結んだ上海にある中国福利会国際和平婦幼保健院の創立60周年記念式典に丸尾病院長、中村肇名誉院長とともに出席してきました。折しも尖閣問題で中国全土で反日デモが行われていた最中、無事出席できました。残念ながら丸尾院長のメッセージは中止となりましたが、式典は多くの方からの祝辞と歌やダンスなど盛大に行われました。

この病院は中国革命の父と呼ばれる有名な孫文の夫人で、中国の建国に大きな影響を与えた宋慶齢の寄付によって創立された産科、新生児科中心の病院で、一年に2万件くらいの分娩があるそうです。かなり進んだ医療が展開されており、我々の病院の重要なパートナーとなるでしょう。

前日には上海の周産期学会、小児科学会主催の新生児医療のシンポジウムが開かれ、我が国の新生児医療の現状について東京女子医大の楠田教授、仁志田名誉教授と私が講演しました。今後、当院といろいろな学術交流、人事交流ができればと思います。

写真:まん中の女性が鄭院長

「平成24年度第1回 クリニカルパス大会を開催して」

クリニカルパス委員会　木村　弘子

平成24年9月21日(金)17:30から、クリニカルパス大会を開催しました。「日本腎臓病学会腎生検ガイドブックに基づいた腎生検のクリニカルパスの改訂」と題し、腎臓内科の神田杏子医師によるプレゼンテーションが行われました。参加者からは「腎生検の流れやエビデンスに基づく観察点が解った」「薬剤の使用意図が理解できた」など大変有意義な時間でした。また、クリニカルパス委員会が今年度に行なっている「バリアンス分析」について、委員である大西美樹外来看護師長から紹介がありました。

当院では、年に2回のクリニカルパス大会を開催しています。ぜひ、各科のクリニカルパスを大会でプレゼンテーションをしていただき、活発な意見交換を経て、患者さんと医療スタッフ両者のための羅針盤の様な役割を果たすものを創り上げていきたいと思っています。

小児歯科紹介

小児歯科医長　　曽根　由美子

はじめに

小児歯科では乳歯のはえる前の赤ちゃんから永久歯列の完成する中学生まで、お口の中が成長発育により変化していくこどもたちを対象に、虫歯予防、虫歯、はえかわり、歯ならび、その他のお口や歯の困りごと、離乳食・食べ方の悩み、など様々なお口の問題に対応しています。中でも「歯のはえかわり」の問題点は気が付きにくいことが多いため定期検診を受けることをお勧めしています。

歯のはえかわり

歯のはえかわりは、6歳ごろ下の乳前歯が抜け、奥に第一大臼歯（6歳臼歯）が生えてくることからはじまり、小学生の間に順次はえかわり、12歳ごろに智歯（親しらず）をのぞくすべての永久歯が萌出し完了します。

注意すること

①　乳歯の虫歯は治療しましょう。

永久歯は乳歯の下で成長します。乳歯の虫歯を放置すると、その下の永久歯の歯質や歯ならびに影響を及ぼすことがあります。

②　左右のバランスを見ましょう。

乳歯は、ほぼ左右対称にはえかわりがすすみます。左右の同じ歯のはえかわる時期の差が大きい場合、先天性欠損（生まれつき歯がない）、異所萌出（歯の生える位置がずれている）、埋伏（歯がはえてこない）などの問題が顎骨内で起こっている場合があります。また乳歯の抜ける時期が通常より早くなったり、遅くなったりすることで永久歯の歯列不正を起こすことがあります。

③　萌出したての永久歯の特徴

エナメル質が成熟していない、歯を磨くときに歯ブラシがあてづらいという環境から虫歯になりやすい時期です。しかしフッ素を一番良く取り込む時期です。小児歯科でのフッ素塗布と適切なハミガキ指導が効果的です。特に加生歯（乳臼歯の後ろに生える永久歯）には注意が必要です。

5歳児のレントゲン写真
（顎の中にはたくさんの永久歯があります）

終わりに

歯の病気は予防できるものが多くあります。今回テーマにしたはえかわりも適切な時期に確認することでよりスムーズに進みます。成長期には是非かかりつけの歯科を持つことをお勧めします。歯やお口のことで何かございましたら、こども病院小児歯科までお気軽にご相談下さい。

こんにちは。保育士です！

循環器B病棟　保育士　奥田　早苗

当院では一般外科病棟、循環器A病棟、循環器B病棟、混合A病棟、混合B病棟、血液腫瘍内科病棟に一人ずつ、合計6名の保育士が配属されています。入院中のお子様の生活が少しでも楽しく、また治療中でも発達できるように遊びを考えたり、季節の行事を行ったりしています。

先日は入院中の子どものための隠し芸大会『よっ日本一！』を行いました。医師、看護師、保育士、病院のボランティアが、器楽演奏、合気道、手品、絵本、フラダンスを披露しました。また入院中の子どもによるダンス演目もあり、さらにそのダンスに飛び入りで参加した子どもたちもいて会場はとっても賑やかに！どのパフォーマンスも見ごたえ満点！会場に熱い拍手が響きました。来て下さった皆様、病院スタッフのとっておきの隠し芸いかがでしたか？病院のスタッフみんなで子どもたちを支えていきたいと思っています。

保育士は遊びの力でみんなの心が元気になるよう応援しています！お母さんお父さん、成長や生活で不安なことやってみたいことなどありましたらいつでもご相談下さい。

Concept　コンセプト

基本理念

周産期・小児医療の総合施設として、母とこどもの高度専門医療を通じて、親と地域社会と一体になってこどもたちの健やかな成長を目指します。

基本方針

1.患者の権利を尊重した医療の実践
2.安全・安心と信頼の医療の遂行
3.高度に専門化されたチーム医療の推進
4.地域の医療・保健・福祉・教育機関との連携
5.親とこどもが一体となった治療の推進
6.こどもへの愛とまことに満ちた医療人の育成
7.医療ボランティアとの協調による患者サービスの向上
8.継続的な高度専門医療提供のための経営の効率化

編集後記

いつにもましてあわただしい年の瀬となりましたが、無事に新年を迎えることができました。

気持ちも新たに「げんきカエル」ではこれからもこども病院のさまざまな情報をお伝えしてまいります。ぜひ皆様のご意見やご感想をお寄せください。

編集委員長：橋本ひとみ
編集委員：田中亮二郎　木村　弘子　内海　祐子
井手　敦子　服部　眞吾　赤松　規子
山根　龍也

本誌に関するご感想・ご希望・ご質問はこちらまで

兵庫県立こども病院
周産期医療センター　小児救急医療センター
〒654-0081　神戸市須磨区高倉台1丁目1-1
TEL 078-732-6961
FAX 078-735-0910（総務課）
FAX 078-732-6980（予約センター）
URL:http://www.hyogo-kodomo-hosp.com/
E-MAIL:info_kch@hp.pref.hyogo.jp

24病㊐2-021A4